

# 地域高齢者における 「生きがい」 の実証的研究

—「生きがい」の有無との関係—

長谷川明弘<sup>1</sup> 星旦二<sup>1</sup>  
藤原佳典<sup>2</sup> 高林幸司<sup>2</sup> 新潟省二<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>(東京都立大学大学院 都市科学研究科)  
<sup>2</sup>(東京都老人総合研究所 地域保健部門)

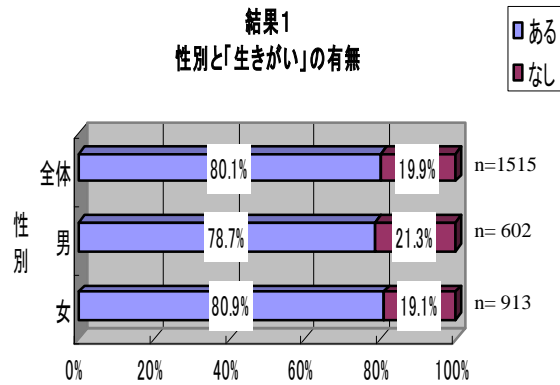
## 背景・目的

- ・高齢者の「生きがい」はQOLとの関連が論じられ、欧米との比較研究が行われてきた。
- ・「生きがい」は日本独自の用語で様々な概念を含んでいる。
- ・今回の目的は聞き取り調査の中で「生きがい」の有無を尋ねて、社会・心理的項目との関連を検討すること。

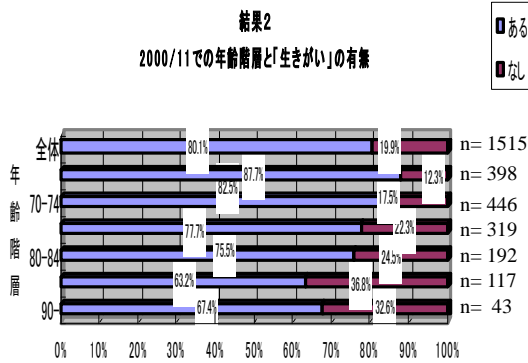
## 対象・方法

- ・新潟県Y町65歳以上全高齢者1673名
- ・健康調査の中で入院・入所中、拒否を除く1544名(92.3%)の回答が得られた。
- ・「生きがい」の対象ならびに有無を問い、性別や年齢階層、健康度自己評価、「生活のはり」等の項目と「生きがい」の有無との関連を検討した。

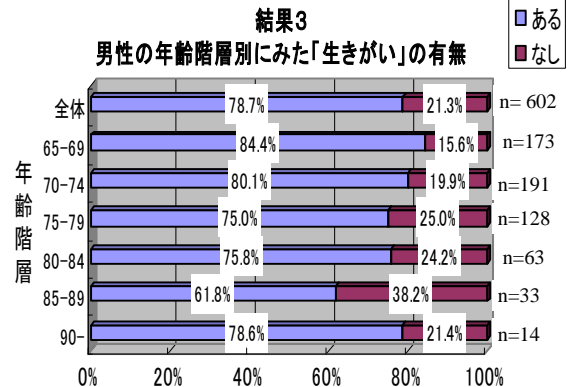
結果1  
性別と「生きがい」の有無

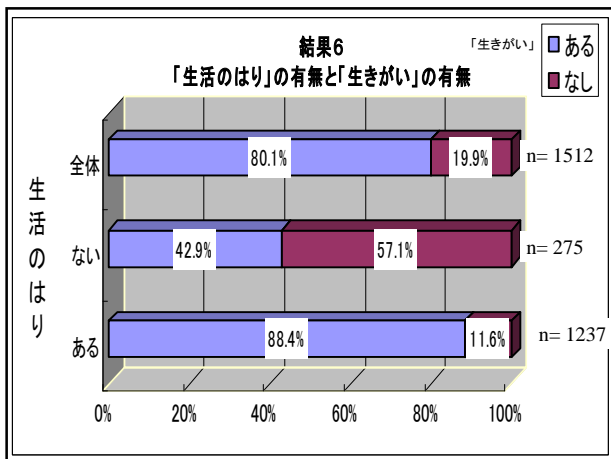
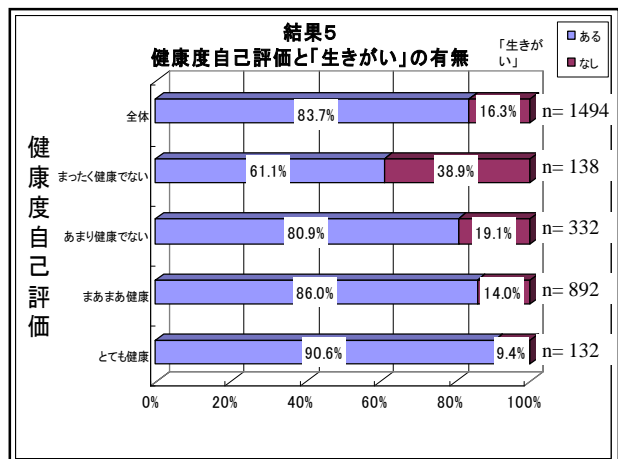
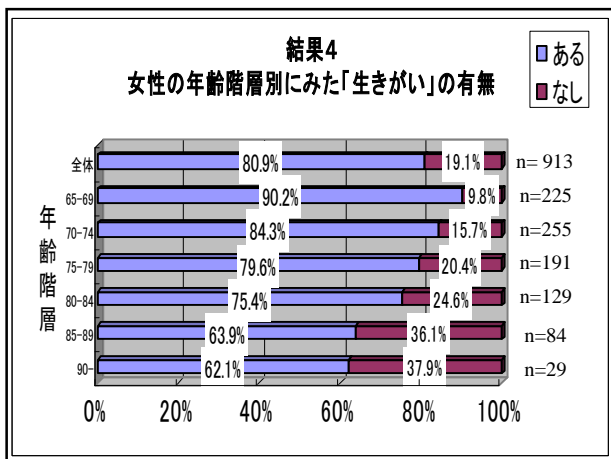


結果2  
2000/11での年齢階層と「生きがい」の有無



結果3  
男性の年齢階層別にみた「生きがい」の有無





## 結果

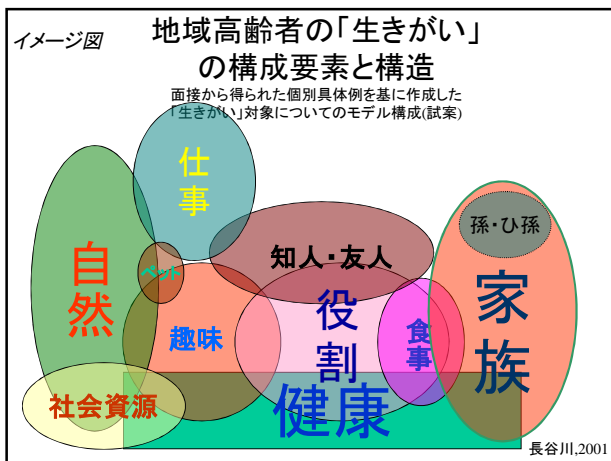
- ・ 性差はなし。
- ・ 男性は85才-89才で『「生きがい」あり』の割合が大きく低下し、90才を越えると再び増加した。
- ・ 女性は加齢とともに『「生きがい」あり』の割合が低下した。
- ・ 健康度自己評価が高い人は『「生きがい」あり』の割合も高かった。
- ・ 「生きがい」の有無と「生活のほり」の有無は必ずしも一致しなかった。

### 考察① — 年齢との関連 —

- ・ 男性が85-89歳で『「生きがい」あり』の割合が低下するのは、体力や認知機能の低下やライフイベントの影響が大きいと考えられた。
- ・ 男性が90歳を越えて再び『「生きがい」あり』が増えていることは「生きがい」を持っている人が長生きする傾向があるかもしれない。

### 考察② — 健康度自己評価・生活のほりとの関連 —

- ・ 『「生きがい」あり』は健康度自己評価が高かった。今後、縦断的な調査により両者の因果関係を明らかにしたい。  
(イメージ図参照)
- ・ 「生きがい」の概念に「生活のほり」が含まれるものなのか別の概念なのかについて、個別の具体例を収集し、両者の概念を整理することが求められる。



## 今後の課題

- ・ 今後は、分析や調査を重ねて地域高齢者の「生きがい」の構成要素を明確にし、また都市高齢者との違いも明らかにしたい。